

提 言

1. 杉原紙の体験と魅力の発信を！！

私達は、「杉原紙の紙漉き体験をしよう」の講座で手漉き和紙を体験させて頂きました。同じ町内に住んでおりながら、ほとんどの方が初めての体験であり、短い時間でしたが物作りの楽しさや難しさを改めて認識し、厳しい作業工程を経て仕上がって行く日本一の杉原紙を、多可町の貴重な文化財として後世まで残していかなければならないと思いました。

その為には、次のような問題を克服しなければならないと思います。

公営企業としてもある程度の利潤を追求しなければならない。

積極的に売れる製品を作り販路の開拓をしなければならない。

売れるための秀逸な製品を生産するためには有能な後継者を育成しなければならない。

町当局も当然これらの問題については、何度も熟慮熟考されてのことと思いますが、次の3点を提言いたします。

①町内のいろんな世代の人々に紙漉き体験をして頂き、杉原紙をより知ってもらい、県内外にPRし、潜在需要を掘り起こしましょう。そして、需要に応じた売れる製品作り、和紙を使った民芸品作りにも、さらに取り組んでいきましょう。

②後継者問題について、地元の若者で紙漉きをやってみたいという意欲のある人がいれば幸いですが、なければ広く公募しましょう。紙漉きをやってみたいと思う若者は、世間にはいるはずです。むろん妻帯者や子供のいる人も受け入れやすい様に住宅の手立ても、町営住宅、もしくは空き家を町が借り入れ提供すればいいと思いますし、それらの方々が定住してくれば、なお良いではありませんか。

③多くの製品を作るために原料の楮が必要なら、加美区でやっている様に、多可町の多くの住民に賛同を得て楮の一戸一株運動を推進しましょう。

杉原紙は兵庫県の重要無形文化財です。先人から受け継いだ貴重な文化財を絶やすことなく後世に伝えて行くことは、とても大切なことで私達市民の使命と考えます。

2. 人材を求める企業との橋渡しを！！

ふるさと創造大学では、ここ数年、町内で活躍されている事業所のオーナーのお話を聴いたり、企業を直接訪問して工場内を見学する講座を継続して開講して参りました。

町内で経営されている企業にもかかわらず、その企業の中身、たとえば、どういった物を製造されているのか、どんな作業をされているのか等、受講生は詳しいことは知っていなかったと思います。それぞれの企業を実際に視察して、自分たちの生活に役立っている製品が多々あることが判り、身近な企業が関係していることに感心しました。将来的には、近未来的な製品ができる可能性が非常に高いと感じました。

この様な企業を経営していくには、優れた人材が必要になって参ります。若者は勿論、高齢者にとっても大切な働く場所になります。特に高齢者が活躍できる場があることは、町民にとって大変ありがたいことです。いつまでも元気で働き続けることは、健康面でも生活面でも大変良いことです。

その様な活動ができる様に、働く場を求める若者から高齢者までと、人材を求める企業との橋渡しを進める窓口を行政に設置してはどうでしょうか、提言いたします。